

# 学校に 地域 って必要？

※PJ=プロジェクト

今月19日に、「子どもにやさしいまちづくりPJシンポジウム」が開催されるので、今月はその内容につながる話をしたいと思います。

## PTAがもたない

「〇〇がもたない」という表現は、この紙面でたびたび出てきました。「学校がもたない」「部活動がもたない」「先生がもたない」そして今度はPTAまで。そんな印象を持った方もいるでしょう。でも現実には現実なのでお伝えしたいと思います。誤解していただきたくないのは、安平町のPTAが、という話ではありません。全国でみられている状況です。

## 社会が変わった

新型コロナウイルス感染症は、あらゆる社会活動を停止させました。そして気づかせました。「これってなくてもどうにかなる？」その一つがPTA活動かもしれません。もともと、PTAは保護者の自主的な組織として、どちらかというと母親が中心となつて活動をしていました。しかし、PTA活動が活発だった数十年前と比べて、次のような社会変化が起きました。

- ・ 共働き世帯が増えた
- ・ 価値観が多様化した
- ・ 情報が手元で得られるようになった

日中に集まるのが難しくなり、情報を得るだけなら集まる必要すらなくなりました。

日中のボランティアも夜の学習会や研修会も参加者が少なくなっていく、PTA役員になり手もいなくなっていくました。そこに追い打ちをかけたのが新型コロナウイルス感染症です。「これってなくてもどうにかなる？」となつてしまったのです（安平町が、ではありません。全国的な傾向です）。

## PTAの代わりが地域？

PTAは学校の教育活動を支えてくれていた一面もあります。その機能が低下していくと「地域が学校を支えよう」という動きが出てきました。でもこんな疑問も湧いてきます。

- ・ 学校ってそんなにサポートしなきゃダメなの？
- ・ みんな働いているのに日中ボランティアは無理…
- ・ 地域が学校支えても学校は地域に何かしてくれるの？
- ・ お手伝いの人手がほしいだけなんじゃないの？

## シンポジウムに 人は集まるのか

ここまで書いていて大きな矛盾を感じます。夜の学習会や研修会の参加者が少なくなっているのにシンポジウムに人が集まるのか？  
こればかりはどうにも分かりません。でも、一つだけ言えることがあります。

今、安平町は教育のファーストペンギンです。ファーストペンギンとは、リスクを恐れず、群れで最初に海中に飛び込むペンギンのことです。社会が大きく変化する時代。子どもたちには「新しい時代をたくましく生きよ」と言いながら、大人達がリスクを恐れて何もしなければ説得力がありません。部活動、PTA、学校、そして地域。新しいカタチが必要なのもかもしれません。その一つが地域学校協働本部です。子どもたちのため、地域のため、自分たちのために一緒に海へ飛び込んでみませんか。